

ドクター メモ

じんましんについて

発症後は早めの治療を

じんましん(蕁麻疹)は皮膚に突然盛り上がったかゆみを伴う赤い発疹(膨疹)が浮き上がり、しばらくすると消えてしまふ病気です。イラクサ(蕁麻)の葉に触れると同様の皮膚症状がおきることからこの名前がつけました。

原因はアレルギー性といわれる食品(そば、エビ、カニ、果物、青魚、香辛料など)、薬剤(抗生物質、解熱鎮痛剤など)の摂取や非アレルギー性といわれる物理的刺激(温熱、寒冷、日光、圧迫)、発汗(入浴、運動)、感染症や疲労などさまざまです。しかしこのような誘因がなく発症する患者も多く、7割の人が原因不明といわれています。発症1か月以内を急性じんましん、それ以上続くものを慢性じんましんといいます。慢性化すると毎日誘因なくじんましんが出る状態となり、非常に治りにくくなります。慢性じんましん

は原因不明ですが、最近の研究では患者の血液の中に痒みを起こさせる細胞を活性化するタンパク質(自己抗体)が存在する例も明らかにされています。

治療は主に抗ヒスタミン薬の服用です。病勢にもよりますが、服用すると数日で症状が治まります。しかしすぐにも服用を中止すると再発することも多く、治まっても数日から1週間ほど服用を続けることをすすめます。慢性化すると非常に治りにくくなるため、発症後は速やかな内服治療がよいでしょう。

日常の注意点は、皮膚への刺激を避けるため綿製品を着用し、十分な睡眠をとり、疲労やストレスをためないようにつること、食事は刺激物や防腐剤などの添加物を避けることがよいでしょう。